

特集「研究会紹介」にあたって

齋藤 博昭
(慶應義塾大学)

櫻井 祐子
(産業技術総合研究所)

上田 晴康
(株)富士通ゼネラル)

加藤 恒昭
(東京大学)

人工知能学会の研究会は、「人工知能の特定の研究分野に関して、研究発表を行い、相互の研さんに役立つこと」を目的としている。現在、表1にある24の研究会(第1種4研究会、第2種20研究会)が活動を行っている。研究会は、4500名超(2019年3月末時点)の会員を有する本学会の根幹ともいえる役割を果たしているが、その活動と関心が広範囲に及ぶこともあって、活動内容の全容は必ずしも広く認識されていないのでは、という危惧がある。

この点を鑑み、研究会の活動を広く知っていただくために、これまでも、節目節目に、学会誌において2010年の「研究会総覧」特集号[津本10]、2011年の25周年記念特集号の解説記事[栗原11]、2016年の30周年記念特集号の解説記事[和泉16]を企画している。今回は、30周年記念特集号の発刊以降、新たに3研究会が創設されるなど、研究会活動がますます活発に行われていることから、本特集を企画した。研究会の主査・幹事の方々に、設立からこれまでの取組み・変革の紹介だけでなく、近年、研究会で盛り上がりを見せている研究など、各研究会で対象とする話題に関する技術動向を含めた紹介記事の執筆をお願いした。第1種研究会の4研究会すべてと、第2種研究会で新規設立された2研究会を含む6研究会の合計10研究会(表1に太字で記載)からなる特集となっている。なお、今回の特集で執筆いただけない研究会に関しても、学会誌で研究会報告として研究会企画などの紹介を行っている。研究会の幅広い活動と関心をご理解いただく一助となれば幸いである。

とはいえ、研究会活動を知る最も有効な手段の一つは、実際に研究会に参加することである。特に、合同研究会は、毎年、多くの研究会が参加し、一般発表だけでなく、研究会ごとで招待講演などが企画され、さまざまな研究会の活動を知る非常に良い機会である。今年度の「合同研究会2019」は、2019年11月22日(金)～23日(土、祝)に慶應義塾大学矢上キャンパスで開催される。18の研究会が参加し、合同企画であるプレナリー招待講演として、(株)ソニーコンピュータサイエンス研究所 北野宏明氏にご講演いただく。さらに、新たな合同企画として、本学会で新たに創設したAI ELSI賞の表彰式およびシンポジウムを行う。詳細は、「合同研究会2019」のホー

ムページ(<https://www.ai-gakkai.or.jp/sigconf/>)をご覧ください。

表1 人工知能学会研究会(2019年7月末時点)

第1種研究会
FPAI:人工知能基本問題研究会
KBS:知識ベースシステム研究会
ALST:先進的学習科学と工学研究会
SLUD:言語・音声理解と対話処理研究会
第2種研究会
Challenge:AIチャレンジ研究会
LSE:ことば工学研究会
CKE:コモンセンス知識と情動研究会
SKL:身体知研究会
NAC:ナチュラルコンピューティング研究会
MBI:分子生物情報研究会
SAI:社会におけるAI研究会
FIN:金融情報学研究会
KST:知識・技術・技能の伝承支援研究会
KSN:知識流通ネットワーク研究会
SWO:セマンティックウェブとオントロジー研究会
DOCMAS:データ指向構成マイニングとシミュレーション研究会
BI:ビジネス・インフォマテックス研究会
WebSci:ウェブサイエンス研究会
AIMED:医用人工知能研究会
AM:インタラクティブ情報アクセスと可視化マイニング研究会
CCI:市民共創知研究会
AGI:汎用人工知能研究会
MEI:計測インフォマテックス研究会
TBC:仕掛学研究会

◇ 参考文献 ◇

- [和泉16] 和泉 潔, 中臺一博, 栗原 聡: 研究会活動の現在・過去・未来あれから30年, これから30年, 人工知能学会誌, Vol. 31, No. 4, pp. 531-549 (2016)
- [栗原11] 栗原 聡: 研究会の動向から見る人工知能研究の25年, 人工知能学会誌, Vol. 26, No. 6, pp. 572-578 (2011)
- [津本10] 津本周作, 栗原 聡: 特集「研究会総覧」にあたって, 人工知能学会誌, Vol. 25, No. 4, pp. 537-539 (2010)